

[課程－2]

審査の結果の要旨

氏名 岡田 真誠

本研究では、低酸素環境下における上皮間葉転換 (EMT) と CD133 の発現との関連と、遠隔転移形成における CD133 の関与の検証を目的として、基礎研究と後方視的観察研究を行い、以下の結果を得ている。

1. 低酸素下では CD133 (-) 細胞と比較して、CD133 (+) 細胞で EMT 関連タンパク質の発現が多く、遊走能も高かった。一方で CD133 (-) 細胞は CD133 (+) 細胞と比較して、細胞接着タンパク質である $\beta 1$ インテグリンの発現が多かった。
2. 遠隔転移を有する大腸癌において、肝転移巣は原発巣よりも CD133 発現率が高く、腹膜播種巣は原発巣よりも発現率が低かった。

以上、本論文は CD133 (+) 細胞は低酸素下において CD133 (-) 細胞よりも上皮間葉転換がより誘導され遊走能も増加するため、肝転移などの血行性転移を起こしやすいこと、一方で CD133 (-) 細胞は CD133 (+) 細胞と比較して接着能が増加するために腹膜播種を起こしやすい可能性を示した。本研究は、これまで明らかとなっていない CD133 の各転移形式における役割の解明に重要な貢献をなすと考えられる。

よって本論文は博士 (医学) の学位請求論文として合格と認められる。